

日本語文法学会2024年度第2回オンラインイベント
ワークショップ

日本語の主題と焦点
—言語対照の視点から—

の だ ひさし
野田 尚史（日本大学）

おおさわ まい
大澤 舞（獨協大学）

きしもと ひでき
岸本 秀樹（神戸大学）

いのうえ まさる
井上 優（日本大学）

なかむら やよい
デロワ中村 弥生（フランス国立東洋言語文化大学）

なかにし くみ こ
中西 久実子（京都外国語大学）

言語対照の視点から 日本語の主題と焦点を考える意義

の だ ひさし
野田 尚史（日本大学）

主題と焦点の関係

文の主題：

- 文の中で前提となる旧情報を表す部分
- ✖ 相手に伝えたい新情報を表す部分

文の焦点：

- ✖ 文の中で前提となる旧情報を表す部分
- 相手に伝えたい新情報を表す部分

文の主題と文の焦点は表裏の関係にある

主題と焦点の関係

文の主題と文の焦点は表裏の関係にある



主題表示機能が発達している言語ほど焦点表示機能が弱いことが多く、焦点表示機能が発達しているほど主題表示機能が弱いことが多いのではないかと予測される。

現代日本語の書きことばは、主題表示機能が非常に発達している言語。焦点表示機能は非常に弱い。

研究の目的

日本語を他の言語と対照することにより、日本語の主題と焦点をより深く理解できるようにする。

分析の主な観点は、次の4つ。

- [1] 主題/焦点を表す手段
- [2] 主題/焦点を持つ文の文法的制約
- [3] 主題を持たない文の文法的制約
- [4] 従属節の中の主題

[1] 主題/焦点を表す手段

(1) 形態

主題:「は」(日本語)

焦点:「tamay」(シンハラ語)

(2) 語順

主題:文の前の方に置く(日本語など)

焦点:文の前の方に置く(スペイン語など)

(3) 音声

主題:強く高く発音せず, 後にポーズを置ける(日本語など)

焦点:強く高く発音する(英語など)

[1] 主題/焦点を表す手段

主題/焦点を表す手段は、主題/焦点を表す専用手段ではないことがある。

日本語の「は」

主題を表す：林はハイボールは飲むけど、ビールは飲まない。

対比を表す：林はハイボールは飲むけど、ビールは飲まない。

スペイン語の文頭位置

主題を表す：La tortilla
その オムレツ

焦点を表す：¿Qué [φ]
何

la comió Pedro.
それ 食べた ペドロ

comió Pedro?
食べた ペドロ

主題を受ける接語形代名詞

スペイン語と違って、
主題と焦点で構文
の違いがない言語
もある。

[1] 主題/焦点を表す手段

言語の種類	主題・焦点を表す手段	形態	語順	音声
主に形態を使う言語（日本語など）		◎	○	○
主に語順を使う言語（スペイン語など）			◎	○
主に音声を使う言語（英語など）				◎

日本語は、主題を表すのに主に形態を使う言語。
語順や音声を併用することもできる。

[2] 主題/焦点を持つ文の文法的制約

日本語で主題になれる文の成分

(1) 格成分名詞: 父がこの本を買ってくれた(こと)

⇒ この本は父が買ってくれた。

(2) 格成分名詞の修飾部分: 象の鼻が長い(こと)

⇒ 象は鼻が長い。

(3) 述語名詞の修飾部分: 広島がかき料理の本場である(こと)

⇒ かき料理は広島が本場だ。

(4) 格成分名詞の被修飾名詞: 新しい辞書がいい(こと)

⇒ 辞書は新しいのがいい。

[2] 主題/焦点を持つ文の文法的制約

日本語で主題になれる文の成分

(5) 述語を含む節: 7月ごろ花が咲く(こと)

⇒ 花が咲くのは7月ごろだ。

擬似分裂文や強調構文と呼ばれ、焦点を表す構文だとされるが、述語を含む節を主題にした文だと分析できる。主題ではない成分が1つで、それが結果的に焦点になっている。

日本語は、さまざまな成分が主題になれる言語。ただし、フランス語など、日本語では主題になれない成分が主題になれる言語もある。

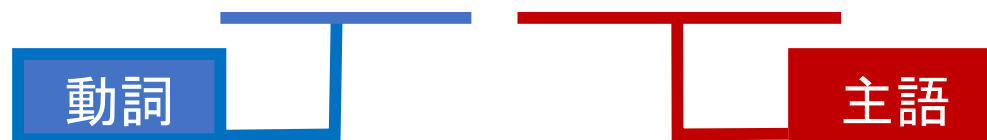
[3] 主題を持たない文の文法的制約

日本語の主題を持たない文:「～は」を使わないことによって、主題を持たない文であることを表す。

そんなことを考えていると、若い召使いが現われた。(『崩壊』)

スペイン語の主題を持たない文:主語を動詞の後に置くことによって、主題を持たない文であることを表す。

Mientras pensaba esto apareció un mozo. (*Desmoronamiento*)
間に 考えていた これ 現れた ある 若い召使い



[3] 主題を持たない文の文法的制約

日本語で主題を持たない文の述語になれる動詞

- (1) 存在:「ある」「いる」「残っている」のような動詞
- (2) 出現:「来る」「出てくる」「現れる」のような動詞
- (3) できごとの発生:「起こる」「始まる」「生まれる」のような動詞
- (4) 知覚:「見える」「聞こえる」「感じられる」のような動詞
- ~~(5) できごとの終了:「消える」「終わる」「死ぬ」のような動詞~~
- ~~(6) 状態の変化:「なる」「変わる」「増える」のような動詞~~
- ~~(7) 動作:「笑う」「寝る」「走る」のような動詞~~

スペイン語で主題を持たない文の述語になれる動詞

[3] 主題を持たない文の文法的制約

日本語:できごとの終了もできごとだと捉えれば, 主題の「は」を使わないことによって主題を持たない文にできる。

「『フランコが死んだ』ねえ, そう言ってくださいよ」 (『風の影』)

スペイン語: 主題を持たない文では主語は動詞の後に来るが, できごとの終了では前提になる主語が後になり, わかりにくくなる。

Franco ha muerto, diga que sí —.....
フランコ 死んだ 言ってください と そう (La sombra del viento)

主語

動詞

日本語では, 語順ではなく, 主題を表す「～は」がないことによって主題を持たない文であることを表すので, さまざまな動詞を持つ文を主題を持たない文にできる。

[4] 従属節の中の主題

日本語：従属度が高い従属節の中では主題は現れない。
(主語は「～は」ではなく「～が」で表される。)

私はろうそくを灯し、子供たちが起きても大丈夫のように、もう
何本か手元に置いておきました。 (『崩壊』)

スペイン語：従属度が高い従属節の中では主題は現れにくい。(主語は動詞の後に来る。)

Yo me alumbraba con una vela y tenía listas otras por
si despertaban **los niños.** (Desmoronamiento)

もし 起きていた その 子どもたち

動詞

主語

[4] 従属節の中の主題

スペイン語とは違って、主題が従属節の中でも主文の中と同じような現れ方をする言語もある。

日本語は、主題についても従属節の中では主文の中と違う現れ方をする言語。従属節の中では絶対テンスではなく相対テンスになったり、従属節の中では「です」「ます」という丁寧さを表す形態が現れにくくなったりする現象と同じことが主題についても起きる。

ワークショップのスケジュール

ワークショップのスケジュール

- 発表6本はそれぞれ発表約20分＋質疑応答約5分。
- 休憩は2回。約5分ずつ。
- 最後に質疑応答中心の全体ディスカッション。約20分。

(1) 言語対照の視点から日本語の主題と焦点を考える意義

(野田尚史)

(2) 中国語から見た日本語の主題と焦点

(井上優)

(3) 英語から見た日本語の主題と焦点

(大澤舞)

[休憩]

ワークショップのスケジュール

(4) フランス語から見た日本語の主題と焦点

(デロワ中村弥生)

(5) シンハラ語から見た日本語の主題と焦点 (岸本秀樹)

(6) 日本語学習者の日本語から見た日本語の主題と焦点

(中西久実子)

[休憩]

全体ディスカッション（質疑応答を中心に）

[17時30分終了予定]

ご清聴，ありがとうございました。

ご質問やご意見などを
よろしくお願いいたします。